

多文化共生教育支援事業報告書

1 委託業務名・概要

(1)業務名 子どもワールドカップ 2005

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

【事業の概要】

在日外国人（朝鮮学校、ブラジル人学校、インターナショナルスクールなど）の子ども達と日本の子ども達が、言葉や人種に関係なく世界中の誰もが知っているサッカーを通して互いが触れあう交流の場となる事業(子どもワールドカップ)を実施した。

【目的・目標等】

日本の子ども達と、外国籍の子ども達がサッカーを通じて普段では実施できない貴重な交流の場を提供することを主目的とし、昼食会や交流試合を開催するなどして、より密なコミュニケーションが構築できる環境をつくることとした。

【効果・有効性】

今回の事業を運営するスタッフに大学生を多く登用し、青年層のマイノリティーに対する意識改革を行い、今後の国際社会のあり方を検討するきっかけとした。

2 実施事業について

(1)実施時期 平成 17 年 7 月 1 日（金）～平成 18 年 2 月 28 日（火）

(2)実施地域 愛知県春日井市

(3)事業の具体的内容

【ふれんどりーリーグ】

6 歳から 15 歳の男女が参加し、サッカーを通して友好を深める目的のリーグ。

【えきさいとリーグ】

12 歳から 15 歳の男子が参加し、国を意識した競技要素の強いリーグ

【交流試合】

参加する選手の交流を深めるため、チームの枠にとられない混成チームを結成し、試合を行った。

【多文化共生体験】

日本調理として豚汁を、メキシコ料理としてタコスを提供した。また、民族楽器を用意し、子ども達に他の国の音楽に触れる体験スペースを設置した。

【交流イベント】

二人三脚、高速ドリブル大会、リフティング大会を開催した。二人三脚では互いの脚を縛りゴールまで走る。1 チーム十人（十人十一脚）で行った。高速ドリブル大会では3本立てたコーンの間を八の字にドリブルし各チームのタイムを競い合った。リフティング大会ではコーンの間をリフティングで往復し先生方がアンカーとして参加した。

【事前の練習試合】

- ・日 時：平成17年7月10日（日）
- ・場 所：春日井市立岩成台中学校
- ・参加校：春日井市立岩成台中学校、東春朝鮮初中級学校

【実行委員会の開催】

2005年8月17日（水） 第一回 実行委員会

- ・愛知県との委託契約について
- ・日程の確認について
- ・会場の選定について

2005年8月27日（水） 第二回 実行委員会

- ・参加チームの調整
- ・日程の調整

2005年9月6日（火） 第三回 実行委員会

- ・事業内容の確認
- ・日程の調整

2005年10月19日（水） 第四回 実行委員会

- ・日時の確定
- ・参加校の調整
- ・事業内容の確認

2005年11月30日（水） 第五回 実行委員会

- ・運営委員会の設立について
- ・本事業の意思決定機関をについて

2005年12月12日（月） 第六回 実行委員会

- ・運営チーム、事務局、サブイベントの分離について
- ・各学校の先生方との調整について

2005年12月19日(月) 第七回 実行委員会

- ・運営チーム、事務局の発足
- ・大学生を中心とした実行委員会の運営について
- ・学生実行委員会へ引継ぎ

【留学生の参加】

- ・10名

【保険の加入】

- ・参加選手 151名(引率者含む)
- ・大学生 30名

【試合数】

- ・参加校による総当りリーグ戦形式 16試合
- ・混合チームを編成した交流試合 6試合

【当日配布物】

- ・プログラム(A3両面、A4両面) 500部 配布

【事前準備】

- ・募集案内(A4) 1000枚 配布
- ・ポスター(A3) 400枚 配布
- ・開催ちらし(A4) 1000枚 配布

【参加校に対するインセンティブ】

- ・多文化共生賞として、賞状と記念品としてサッカーボールを贈呈

3 実施結果（実施の効果等）

【試合結果表】

	DOM BOSCO SPORTS CLUB		FINS		岩成台中学校 サッカー部		朝鮮合同チーム		ESP JOVEM		得点	失点	得失点差	勝	分	計
	1試合目		10試合目		8試合目		3試合目									
	勝	負	勝	負	勝	負	勝	負								
えきさいとリーグ	DOM BOSCO SPORTS CLUB		7		1 1		1 0		6 0		15	1	14	3	1	10
	FINS		0 7		0 3		0 2		3 2		3	14	-11	3	1	
	岩成台中学校 サッカー部		1 1		3 0		0 0		15 0		19	1	18	2	2	
	朝鮮合同チーム		0 1		2 0		0 0		5 1		7	2	5	2	1	
	ESP JOVEM		0 6		2 3		0 15		1 5		3	29	-26	0	0	
ふれんどリーグ	COLEGIO AUREO		ESP MISTO		EAS TOYOHASHI		NECTAR FUTEBOL CLUB		得点	失点	得失点差	勝	分	計		
	1試合目		10試合目		8試合目											
	勝	負	勝	負	勝	負										
	COLEGIO AUREO		4 1		1 0		5 0		10	1	9	3	0	3	1	9
	ESP MISTO		1 4		0 2		2 4		3	10	-7	0	0	3	1	
EAS TOYOHASHI		0 1		2 0		10 0		12	1	11	2	0	3	1		
NECTAR FUTEBOL CLUB		1 5		4 2		0 10		5	17	-12	1	0	3	1		
											3	0	3	0	3	

2006/2/19 18:56

【表彰一覧】

賞名	受賞者	備考
優勝	コレージオ・ドンボスコ	えきさいとリーグ
準優勝	春日井市立岩成台中学校	
3位	東春朝鮮初中級学校	
得点王	春日井市立岩成台中学校 本田 保光	
MVP	コレージオ・ドンボスコ アンデルソン光橋	
優勝	コレージオ・アウレオ	ふれんどりーリーグ
準優勝	EAS 豊橋	
3位	エスコーラ・ネクター	
得点王	EAS 豊橋 キンジョータルソ	
多文化共生賞	春日井市立岩成台中学校 東春朝鮮初中級学校 ドンボスコ学校 名古屋国際学園 エスコーラサンパウロ エスコーラネクター コレイジオアウレオ EAS 豊橋	参加記念品として、サッカーボールを寄贈
感謝状	中部大学 NPO センター	

4 事業の特質（工夫した点など）

【交流試合】

本来のワールドカップと同じようにリーグ戦を開催するだけでなく、出場校の選手から混成チームを作り交流試合を行い、サッカーというスポーツを媒体にして、異文化交流を体験することができるようにした。

【サブイベント】

子どもワールドカップのサブイベントとして、会場内で異文化としての音楽・食事をテーマに、とん汁やタコスの無料配布や、民族楽器を置いたブースを作り民族音楽体験を子どもたちと楽しむことにより、試合の合間の時間を異文化体験の時間すること、エネルギーの補充を実現し、事業の充実を図った。

【リーグ戦】

参加した選手には高い目標と志を育みたいということで、ゲーム時間やボールのサイズ以外の試合ルールなどは公式のルールで行った。またリーグ戦も総当りで行うことにし、他のチームの試合に関心を持つことによって大会全体を盛り上げる仕掛けとした。

【交流イベント】

リーグ戦や交流試合を終えた大会二日目の午後には、試合としての枠組みを超えた交流イベントとして、二人三脚(1チーム10人での10人11脚)や高速ドリブル大会、リフティング大会などを開いた。そして参加した選手やスタッフ、引率の先生や応援にかけつけてくださった保護者の方や兄弟姉妹の皆でゲームを楽しんだ。

【指導者ミーティング】

事前に各指導者とミーティングを行い、問題点や課題、事業の意義や成果について話し合うことに、より発展的な交流を実行委員会の中で図った。

日 時：平成18年2月7日(火)19時～20時30分

場 所：中部大学29号館2階 会議室

参加者：有田隆之先生(春日井市立岩成台中学校)

李哲秀先生(東春・岐阜・四日市朝鮮合同チーム)

平山アカシオ先生(コレジオドンボスコ学校)

エリック オルソン キクチ先生(名古屋国際学園)

大学生10名

松浦孝英(地球子ども村 理事長)

指導者意見交換会で先生方から出た意見

去年の子どもワールドカップを終えて、良かった点

- ・日本人はシャイなので食事中も黙っていたが、今年も是非参加したいと言っている。今年は積極性が出ると思う。
- ・日本人は外見から判断し入っていくことが多いが、触れ合うことで、サッカーの技術などから相手に対して尊敬の念が生まれ、応援しあうことができるようになった。

- ・子どもたちの大きな成長がうかがえる。(岩成台中)
- ・日本の部活動の規則のあり方などもあり、普段教えることのできていないサッカーの本当の楽しみを教えることができた。(岩成台中)
- ・先生同士も仲良くなることができた。先生同士の交流が第一歩になる。
- ・友達ができた。メールアドレスの交換をした。
- ・食事中など大学生が間に入って来て、仲を繋いでくれて、すごくいい助け役をしてくれた。
- ・個々で遊びやすい現代の子どもたちに「みんなで活動する場」を大人が提供してあげることが今必要となっていると思うので、このような場が大切。
- ・他のブラジル学校との交流の機会にもなる。
- ・テレビやゲームから離れ、サッカーの試合ができる、交流ができることがいい。
- ・日本にもいろんな国の人がいるんだということを理解することができる。

今後の取り組みとして

- ・去年も本事業が新聞に掲載されたりして、子どもたちの大きな思い出になった。このことで、いつか彼ら自身がこのような事業を実行していってくれるのではないか。継続することが大事。
- ・サッカーだけではなく、各校の学校の風景や授業など、各自写真などにしたりして、スライドのようにして見せ合ったりしてより深い交流がしてみたい。

5 今後の課題

【運営の課題】

- ・今回のワールドカップ反省を生かして今後、より良い大会として継続的な事業として展開する。
- ・今回多文化共生をテーマに子どもワールドカップを開催したが、会場周辺地域などに対する広報活動が十分ではなかったとの声も聞こえてきた。
- ・中学生と小学生の区分について課題が見えた。今回出場校の調整の段階で出場選手の年齢などの制限が十分に無かったため、試合中年齢差からくる体格の違いなど、試合がフェアにならなかったケースも見えてきた。
- ・今回メインランドとサブランドでイベントを同時進行させたため、観客の入りの関係から、歓声や盛り上がりがメインとサブで違いがでた。

【事務局としての今後の課題】

- ・当日参加ボランティアについての業務の割り振りがうまく行かなかったとのこと。
- ・今回のワールドカップにおいて初めて二日間の開催ということもあり、準備や片付けのスケジュールリングが十分でなかった。今後は会前後のスケジュールもしっかりと見つめていく必要がある。

6 その他参考事項

【添付資料】 ・事業報告書 ・マニュアル